

D-11 近代被服教育の成立過程に関する一考察 —教材内容の変動過程を中心として—

和洋女子大 土門由紀子

1. 本研究は、東京はじめ全国40数カ所の大学・公立図書館・個人蒐集家などで発見することのできた被服関係の教材を収めたおびただしい往来（近世の初歩教科書）や、近代学校の裁縫教育を目途として編纂された被服教科書の内容について、こまかい分析をほどこし、近世から近代への時代的な推移にともなうその量的変動や、質的転換のプロセスを明らかにしてみるのを直接のねらいとする。

2. この目標を達成するため、①とりあげた衣服のひとつひとつについて、その裁ちかた・縫いかた・仕たてかたの各分野にわたって、合理的・科学的な配慮のもとで実習作業をすすめさせようとしていること、②子どもと子どもをとりまく家庭生活をよくふまえたうえで教材内容をえらんでいること、③子どもの成長過程、とりわけかれらの興味や能力の、それを慎重に考慮しつつ教材の排列にあたっていること、の3点に発展過程のポイントをおいて資料整理をすすめた。

3. 今回は、教材内容の現象的な変転の奥で躍動している叙上の学習方法観や児童観の具体的な姿をとらえることによって、当時（主として明治初年）の社会ならびに教育界の流れにそくしつつ、被服教育の構造ならびに機能が「近代化」していくことの意味と限界とについて得られた結果を発表する。